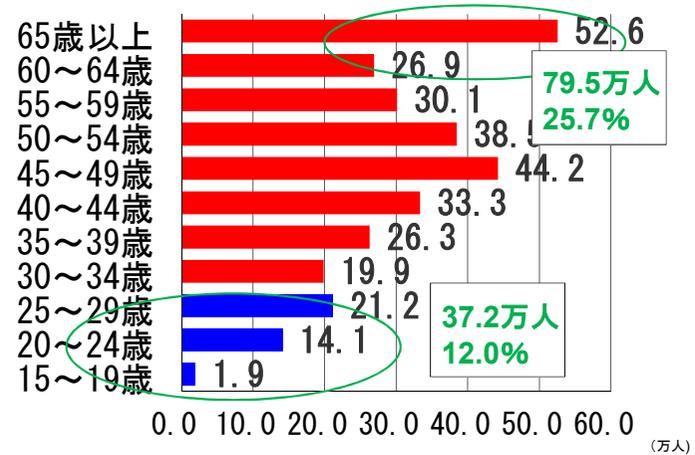


建設業を取り巻く現状と課題

60歳以上の高齢者(79.5万人、25.7%)は、10年後には大量離職が見込まれる。一方、それを補うべき若手入職者の数は不十分。

(年齢階層) 年齢階層別の建設技能労働者数



出典: 総務省「労働力調査」(R3年平均)を元に国土交通省にて推計

社会保険の加入は一定程度進んでいるが、下位の下請になるほど加入率は低く、さらに踏み込んだ対策が必要。

企業別・3保険別加入割合の推移(事業者単位)

| | 雇用保険 | 健康保険 | 厚生年金 | 3保険 |
|--------|------|------|------|-----|
| H23.10 | 94% | 86% | 86% | 84% |
| H24.10 | 95% | 89% | 89% | 87% |
| H25.10 | 96% | 92% | 91% | 90% |
| H26.10 | 96% | 94% | 94% | 93% |
| H27.10 | 98% | 97% | 96% | 96% |
| H28.10 | 98% | 97% | 97% | 96% |
| H29.10 | 98% | 98% | 97% | 97% |
| H30.10 | 98% | 98% | 97% | 97% |
| R01.10 | 99% | 99% | 99% | 98% |
| R02.10 | 99% | 99% | 99% | 99% |
| R03.10 | 99% | 99% | 99% | 98% |

出典: 公共事業労務費調査

元請: 99.5%
1次下請: 99.0%
2次下請: 97.2%
3次下請: 92.1%

給与は建設業全体で上昇傾向にあるが、生産労働者(技能者)については、製造業と比べ低い水準。

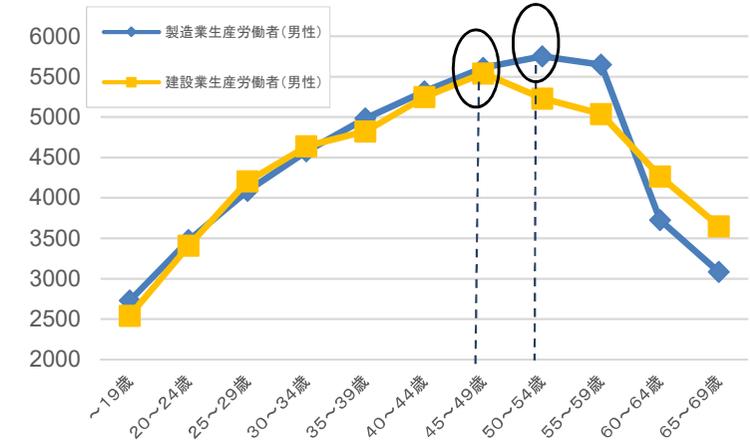
建設業男性全労働者等の年間賃金総支給額

| | 平成24年 | 令和2年 | 上昇率 |
|------------|-----------|-----------|----------------|
| 建設業男性生産労働者 | 3,915.7千円 | 4,510.5千円 | 15.2% |
| 建設業男性全労働者 | 4,831.7千円 | 5,618.7千円 | 約3%の差 16.3% |
| 製造業男性生産労働者 | 4,478.6千円 | 4,660.7千円 | 4.1% |
| 製造業男性全労働者 | 5,391.1千円 | 5,381.4千円 | ▲0.2% |
| 全産業男性全労働者 | 5,296.8千円 | 5,459.5千円 | 3.1% |

出典: 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(10人以上の常用労働者を雇用する事業所)
※年間賃金総支給額=きまって支給する現金給与額×12+年間賞与その他特別給与額
※令和2年より生産労働者のみの調査がなくなったため、2020年の生産労働者の値は、全労働者の対前年増減率と同じ増減率を仮定して算出。

○製造業の賃金のピークは50~54歳であることにに対し、建設業の賃金ピークは45~49歳。
○賃金カーブのピーク時期が製造業よりも早く到来する傾向があり、現場の管理、後進の指導等のスキルが評価されていない可能性。

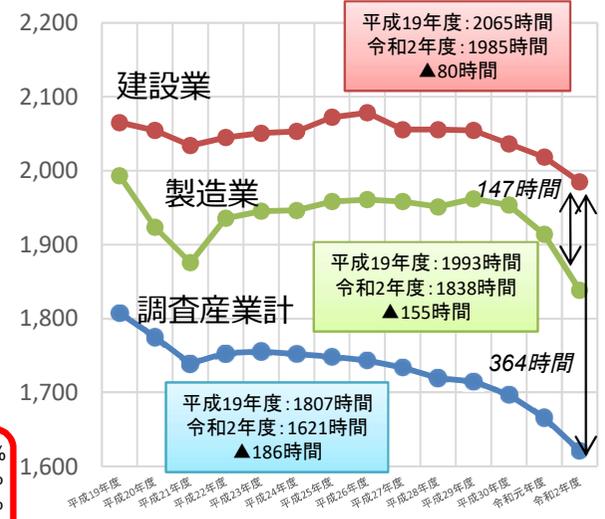
(単位: 千円) 年齢階層別の賃金水準



出典: 令和元年賃金構造基本統計調査

建設業は全産業平均と比較して年間360時間以上長時間労働の状況。

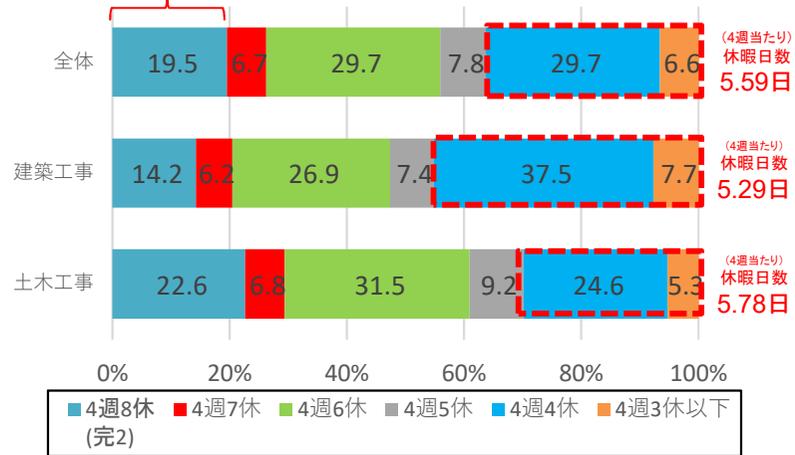
(時間) 年間実労働時間の推移



出典: 厚生労働省「毎月勤労統計調査」年度報より国土交通省作成

他産業では当たり前となっている週休2日もとれていない。

現在4週8休は2割以下 建設業における休日の状況(技術者)



※日建協の組合員の技術者等を対象にアンケート調査。
※建設工事全体には、建築工事、土木工事の他にリニューアール工事等が含まれる。

出典: 日建協「2020時短アンケート」を基に作成